

総論| イントロダクション (1/2)

P.1

本提案書は、YCY会計が進学目的の潜在受講生説明するためのものである。膨大な情報に惑わされないよう、各読み手の受講生まずは4W1Hを明確にし、P.5のRoadmapにて、自身の属性（SP/SRモデル）を特定した上で、該当ページを参照されたい。

WHO：指導を求める対象は明確であるが、指導者側はいかなる人物か。

YCYの背景の人で、YCYが提供している指導業務（P.3~P.4）

YCYが公認会計士であり、約5年前から指導業務を提供している。厳しい社会経済的環境下において採算性を重視しており、提供するサービスを高付加価値なものに限定している。

一般に、行動ロジックを秘匿する背景には、組織の不透明性や情報非対称性を利用した収益モデル（例：無料教材が存在するなかでの有料サービスの提供等）が存在する場合がある。一方で、YCYは効率的なサービス提供による収益化を秘匿する意図はない。読み手が短期的または長期的な受験支援のパートナーとなる可能性がある以上、前提条件を把握する必要があると考えられる。

Where：目標を基準とし、現状の位置、What：目標到達のために何を、How：いかに学習すべきかを明確にする。

目標ランクの学校に応じて今の2W1H（P.5~P.17）

Where：について、モデルを最初判定、SPとSR型
What：について、各モデルの勉強内容を明確
How:各モデル時間軸にスケジュールを可視化

戦略が誤っている場合、戦術がいかに優れていても既に危険な環境に直面している。公認会計士の視点から、目標達成（合格）に向けたロードマップを策定するにあたって、この原則を適用し、2W1H（Why, What, How）を明確に定義する必要があると考えられる。

What（学習内容）とHow（学習方法）が確定した後、具体的にいかなるプロセスで解決を図るべきか。

YCYからのWhatとHowについての解決案（理論学習P.18~P.20（研）計画書指導P.22~P.23（専）面接対策P.23~P.25（専）過去問答案P.26）

提供サービスの整理
理論指導：無料サービスでは広範かつ基礎的な学習を提供する一方、有料サービスでは体系的な学習を通じた長期的な伴走により、優位性の構築。
面接指導：形式的な回答（建前）の整備に加え、想定質問に対処可能な論理的回答の準備。
研究計画書指導：本人の主体的関与を前提として、研究の方向性策定から内容の具体化まで、要点を絞った指導。

1行目はYCYの背景、2行目は受講生自分自身の情報等、これを踏まえて、受講生においては、各人のニーズに基づき、これらのサービスが特定の予算範囲内で提供されていることを想定されたい。

メインストーリー（合格戦略）を補完する重要資料：計算科目の学習方法、各モデル別の過去実績、および重要FAQ（P.27以後参照）。

総論| イントロダクション (2/2)

P.2

このページは最初読む必要がない、提案書の理解に支障が生じた際のみ、以下の質問・トラブルに立ち返ることを推奨する。

自分の答えが見つからない・理解困難

日本語能力の要件？

请查看小红书笔记里面的Q1（为这个问题的下面的日语回答的中文翻译）

Roadmapに記載の通り、日本語能力が一定の水準に達していない場合、専門知識の学習を開始する段階にないと判断される。そのため、該当する受講生向けの教材はあえて作成していない。

FQAにも解決できない問題？

YCYに連絡してください。

Roadmapに乗せることが難しかった、理解できなかった？

本提案書は、受講生がサービスを選択する一助となるだけでなく、YCY側が受講生の適性を判断するフィルターとしての機能も有している。過去の合格者からにも自学＋重要項目伴走のスタイルで成果を出すには、提供される情報を冷静に理解する能力が不可欠である。前に比べて、本提案書は構造化により平易な表現に努めているが、内容の理解が困難な場合は、再度前段の資料を確認するか、あるいは他の学習形態を検討する必要があると考えられる。

読み終わったが、自学＋重要項目伴走のスタイルにはやはり自分の自学力、自律性など不安ある

自律性の観点から不安を抱くことは、むしろ好ましい兆候といえる。合格者の多くは当初、自身の能力に不安を抱きつつ学習を開始しており、逆に初期段階で過度な自信を持つ者は、学習の継続が困難になる傾向がある。過信は学習上のリスクを増大させるため、現状の慎重な姿勢は合格の可能性を高める要素となり得る。

まずは無料パートから試行することを推奨する。他の指導機関（塾や包括パッケージ等）を検討している場合、表面的なサービス内容に惑わされず、自身の課題を真に解決できるかという観点で判断されたい。過去の事例では、他機関での学習後に、過去問対策や研究計画書の難航を理由にYCYへ移行する受講生も多い。

学習形態の優劣は、個人の特性に依存する。下で示した通信講座を利用し効率性を重視して公認会計士を合格したYCYと、校舎での交流を原動力として合格した友人の例の通りに、手法は異なっても目的の達成は可能である。重要なのは「どちらが正しいか」ではなく、自身に適した環境を選択することである。逆に、特定の学習方法を強要したり、受講しなければ合格できないと不安を煽るような言動には注意が必要である。

通信通学の話：当時校舎行かずの通信コースで会計士合格したYCYが、通学合格した同期と雑談するとき、ycyがそもそも校舎リアル勉強するのはただの通学時間無駄と思う一方で、友人にとっては、同じ目標頑張る人と短時間でもいいから毎日話せるのは、原動力でめっちゃ重要と言われた。最終的に双方が合格という成果を得ている事実は、手法の正否ではなく、個々人に適した環境選択の重要性を示唆している。

総論| Why YCY

P.3

YCYは大学3年次に公認会計士試験に合格した元留学生であり、2025年まで5年間にわたる指導経験を有する。指導の核心は「自学スタイルへの伴走」にあり、一人でも多くの人材を日本の会計業界へ送り出すことをミッションとしている。

専門知識

負け知らずレベルの卓越実績

- ・ **会計資格の最高峰を早期に登破**：2020年に難関資格を突破。指導者として5年以上のキャリアを有する。
- ・ **在学中の現役合格**：2019年（大学2年生）で短答式試験に合格、翌2020年（大学3年生）で論文式試験に合格。
- ・ **上位合格による品質保証**：学業との両立が困難であった初回の論文式試験を除き、簿記3級から会計士修了審査まで、全て上位かつ一発合格を達成。
 - **会計士試験（2021-2022）**：論文式試験 301位/1,200名（模試段階では20位～100位前後を推移）。
 - **修了審査（2023）**：監査論（B判定）を除き、全科目A判定を記録。

指導実績

5年以上の経験

- ・ **合格実績に基づく「ゴールドモデル」の選定**：豊富な成功事例から個々に最適化された「ゴールドモデル」を特定。現状の課題解決から目標達成までの最短ルートを提示する。
- ・ **試験制度への精通**：資格試験の特性を熟知しているため、目標までのギャップを即座に特定可能。
- ・ **多様な事例に基づく最善策の提示**：資格試験に留まらず、数多くの成功・失敗事例を分析。受講生の現状に応じた最善案を提示する。
- ・ **指導の源流としての自負**：市中の塾やSNSで活動する講師の中には、YCYの指導を受けた元受講生も多く存在する。本質的な指導を求めるならば、その源流を活用すべきである。
 - ゴールドモデルの詳細はP.32～P.35を参照。

コスパ

自学自習による能力の最大化とコスト抑制

- ・ **総コスト20万円以内**：長期伴走（6カ月以上）の場合でも、開始から合格までの総コストを20万円前後に抑えた事例が大多数を占める。
 - **研究職志望**：計画書添削、面接対策を含む。
 - **専門職志望**：面接対策、過去問対策を含む。
- ・ **自学自習スキルの習得**：自学力は受験時のコスト削減に寄与するだけでなく、将来にわたる財産となる。「自学が困難」という理由で安易に全面的なフォローを求める姿勢は推奨されない。
- ・ **自学による早期合格の実証**：YCY自身、簿記1級までを完全独学、初回の論文試験までも半分を独学で進めることで早期合格を実現した。
 - 自学スタイルはYCYのサービス提供における大前提となるため、次頁の内容を必ず確認されたい。

※詳細経歴はP.37を参照されたい

総論| YCYの提供前提

P.4

付加価値の高いサービスにリソースを集中させるため、時間単価を500RMBに設定し、最大25時間前後の高効率な指導を行う。これが市場均衡に基づいたYCYの適正な業務提供形態である。

前提

指導業務の意義と時間・コスト制約の現状

- 指導業務には大きなやりがいがあり、会計業界全体への貢献に繋がると認識している。
 - 日本語学校からのスタートで、来日当初は知見のなかった後輩が夢を叶え、会計業界の各分野で活躍する姿を見ることは大きな喜びである。
 - 資格取得や新卒採用のルートは険しいため、一人でも多くの志願者を支援したいと考えている。
- 一方で、事業としての採算性と時間の確保には常に留意が必要である。本業での報酬水準を鑑みると、時給換算で市中塾と同等の価格設定は、YCYにとって合理性を欠く。
 - 具体的には、1時間あたり500RMB以下の設定は採算が合わない判断せざるを得ない。
 - 現在は実務においても現場主任レベルの職責を担っており、可処分時間が限られている。

解決案

付加価値に基づくサービス提供の重点化

- 指導行為における付加価値の区分：指導の価値は一概ではなく、講義内容が同一であっても、形式やカスタマイズの度合いによって大きく変動する。
 - 高付加価値な指導**：指導者の高度な専門性を前提に、受講生の個別具体的な課題へ対応し、知識を実用レベルまで引き上げる指導を指す。
 - 低付加価値な指導**：多人数向けであり、指導者の高度な専門性を必ずしも必要としない基礎知識のインプットを指す。これらは自学自習によっても習得が可能である。

結果

YCYによる有料・無料サービスの切り分け

- 提供スタイルとして、低付加価値領域は自学を推奨し、高付加価値な指導に注力する。
 - 低付加価値領域の自学支援**：最善の自学ルートを提示し、理論・計算ともに無料で提供する。
 - 高付加価値指導への集中**：指導側・受講側双方が、コンパクトかつ効率的に、高い採算性をもって実施できる体制を構築する。
- ミスマッチ防止のための分類**：長期伴走から単発（ONE TIME）まで、需要に応じてYCYが提供可能な価値を当初より明確化する。
- 「とにかく50万～100万払って、受講してください」といった手法ではなく、個別の状況に当てはめを行い、最適な提供タイプを選択する。
 - YCYはタイムチャージ制を採用し、毎回指導実施後に今回実績時間で精算を行うため、いかなる場合も前受金は受領しない。
 - 個別の条件（語学力不足や学習時間の欠如等）により、業務提供が困難であると判断するケースも想定される。

総論| Roadmap

P.5

最短時間で効率的な指導を実現するため、学生をSP-1～3、SR-1～3の各モデルに分類している。自身がどのモデルに該当するかを判断した上で詳細を確認すること。なお、進学を目的としない者はその旨をYCYに直接申し出ること。

凡例

YES/NO判定

該当ページに行く
入試試験以外
キャリア、資格取得の悩み等がある場合P.X
それ以外、在学生の論文アドバイス等は直接その
旨をYCYに伝えること

日本語能力が最低限の水準に達していない状態で無理に専門学習を進めるのは、通常の倍以上の時間を要し極めて非効率である。本来その時間を日本語学習に充てれば解決する問題であり、自虐的な非合理行動は避けるべきである。

当てはめ

日本語はN1合格済み・あるいは同等水準？

YES

目指す学校中最高ライン？

研究者：早慶・旧帝大・横千築等、
またそれ以上
専門職：早稲田・東北大

※複数ランクあるとき最高レベルの学校を基準

左記
通り

ほぼ基礎なしの場合：直近試験
まで約5か月以上時間あり
ある程度基礎あるとき：直近試験
まで3か月以上時間あり

※研究者で英語対策時間を除いた時間

左記の
時間
ある

専門職希望
SP-3型(P.10~P.11)
^

研究者希望
SR-3型(P.16~P.17)
^

EX型：進学を目的に該当しない時

在学生の論文悩み・
キャリア相談等

No

まず日本語頑
張りましょう

上記以下の学校

専門職希望
SP-1型(P.6~P.7)
^

研究者希望
SR-1型(P.12~P.13)
^

上記の時間なし

専門職希望
SP-2型(P.8~P.9)
^

研究者希望
SR-2型(P.14~P.15)
^

モデル| SP-1 (概要)

P.6

SP-1は計算問題が中心であり、理論の体系的習得は必須ではない。志願者数が最多であるため、近年は試験範囲の拡大よりも「面接の比重」が高まる傾向にある。したがって、徹底した面接対策が合否を分ける。

SP-1の概要 早大・東北大以下の専門職

大区分	科目	合格レベルの目標値	重要度	備考
計算	財務会計	簿記2級前後	高	1級知識は厳格に不要
	管理会計	簿記2級前後	中	1級知識は厳格に不要
理論	財務会計	表面的な知識	中	競争状況等により表面的な知識もある程度網羅的にしたほうがいい
	管理会計	不要～表面的な知識	低	競争状況等により表面的な知識も最低限あったほうがいい
その他	面接	一定質以上の理由書とある程度流暢に質問応答ができる	高	ほぼどの学校も必須
	口述	ある程度計算・理論レベルの内容を口述できると	低	青山だけ

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.33に参照

SP-1 (早大・東北大以下の専門職大学院)

- 計算>理論**：計算中心の学習が主となる。理論については、市場（買い手である大学院と、売り手である受験生）の均衡点として、表面的な学習に留まるというジレンマが存在する。
 - そもそも論から生まれた理論のジレンマ**：理論のジレンマ：専門職志望者は、計算学習の余剰リソースを理論に投下する傾向がある。理論を深く追求する意欲と能力を兼ね備える層は、計算学習にも相応の予算を割いているため、通常はより上位の区分を目指す。逆に、簿記2級の合格が危うい層は、理論学習にリソースを割く余裕を欠いているのが実情である。
- 面接重要度高**：大半の大学院は面接を重視している。したがって、志望理由書の作成および面接対策には、十分な工夫を凝らすべきである。
 - 計算・理論以外の難化傾向**：筆記試験の考察範囲は、真面目に取り組めば到達可能なレベルに設定されている。競争の激化に伴い、試験範囲そのものを拡大させることは困難であると考えられる。
 - 従来合格者からの傾向と反省**：会計学は黙々と取り組むべき学問であるが、簿記2級に合格しN1（日本語能力試験1級）を保持していても、発信力や記述力に欠け、受講自体が円滑に進まないケースが散見される。特に関西圏のある専門職大学院では、N1を保有しない留学生を不合格とする方針を採っているとの情報もあり、注意を要する。

モデル| SP-1 (Roadmap)

P.7

計算中心の学習となるため、理論は過去問演習と並行すれば足りる。すべて無料教材での自学が可能であり、1日2～3時間の学習を4～6か月継続すれば、ゼロベースからでも合格水準に到達できる。面接対策は出願1か月前には着手すべきである。

凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部の学校のみ必要
該当ではない場合無視

Day1

Stage 1 (2～3カ月)

Stage 2 (2～3カ月)

計算

簿記3級 (P.27)
_S

簿記2級 (P.27) _S

過去問対策 (P.29)_B

理論

YCY自制教材 (基礎編) (P.18)_B

面接等

口述対策が必要と判断
される場合は、あらかじめ
受講を強く推奨

志望理由書準備 (P.23～P.25)_S
出願1か月前前後面接対策結果準備 (対策の結果を
暗記、練習等) _S志望理由書添削・面接対策 (P.23～P.25) _S
出願1週間前

口述対策_青山のみ_S(個別対策)

モデル|SP-2（概要）

P.8

SP-2はSP-1よりも範囲が広いが、準備時間が不足している点が最大の特徴である。結果として「時短合格」を狙わざるを得ず、学習項目を絞り込むため、合格期待値は低下する。可能であれば時間予算を確保し、SP-3へ昇格することが望ましい。

SP-2の概要 早大・東北大の専門職（時間足りない）

大区分	科目	合格レベルの目標値	重要度	備考
計算	財務会計	簿記2級 + 1級最低限	高	1級は20%前後
	管理会計	簿記2級 + 1級最低限	高	1級は20%前後
理論	財務会計	できるだけ網羅	高	時短でカバー
	管理会計	できるだけ網羅	高	時短でカバー
その他	面接	最低限	高	SP-3レベルではないから滑り止めのためにもSP-1と同じ準備で
	口述	最低限	低	筆記突破してからしかない 理論が薄いから期待が薄い

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.34に参照

SP-2(早大・東北大の専門職（時間足りない）)

- 時短合格が目標値：**早稲田大学や東北大学を志望しつつ、実力がSP-1レベルに留まり、かつ残された時間で大幅なレベルアップが困難な層を指す。合格を果たすためには、各科目の到達水準を最低限の範囲で積み上げていく必要がある。
 - 時短合格に伴うリスク：**本命校を断念せず無理に水準を合わせるアプローチは、精神的な負荷が極めて大きい。手応えを得られないまま合格率の低い「無理なゲーム」を強いることになり、本来は回避すべきパターンである。
 - 滑り止めの確保：**上位校の不合格リスクが極めて高いため、下位校を併願することが不可欠である。その意味で、リスク管理の重要性は非常に高い。
- 最小限の学習範囲：**SP-1とSP-2では求められる能力に大きな乖離がある（例：簿記2級100時間に対し、簿記1級の範囲は300時間を要する）。しかし、時間的制約から、計算・理論ともに重要論点に絞った効率的な学習が求められる。
 - 計算対策：**本来であれば簿記2級を発射台として1級の論点へ段階的にピックアップして勉強すべきだが、時間不足の場合は合格に必要な最低限の知識習得に限定せざるを得ない。
 - 理論：**SP-1と比較して本来は体系的な理論学習が不可欠だが、時間的制約下では表面的な理解を土台とし、網羅性を維持しつつ浅く学習を進めることになる。
- 時間確保によるSP-3への移行推奨：**試験まで1ヶ月を切るなど物理的に不可能な状況を除き、1日あたりの学習時間を倍増させる等の対策により、SP-3（上位校合格水準）を前提とした計画へ再編することを推奨する。

モデル| SP-2 (Roadmap)

P.9

計算範囲をカットすると、出題カバー率が下がるだけでなく、絶対的な演習量不足に陥るリスクがある。理論学習は最小限に留め、計算の遅れを取り戻すために過去問演習の段階で集中的に投下するほかない。

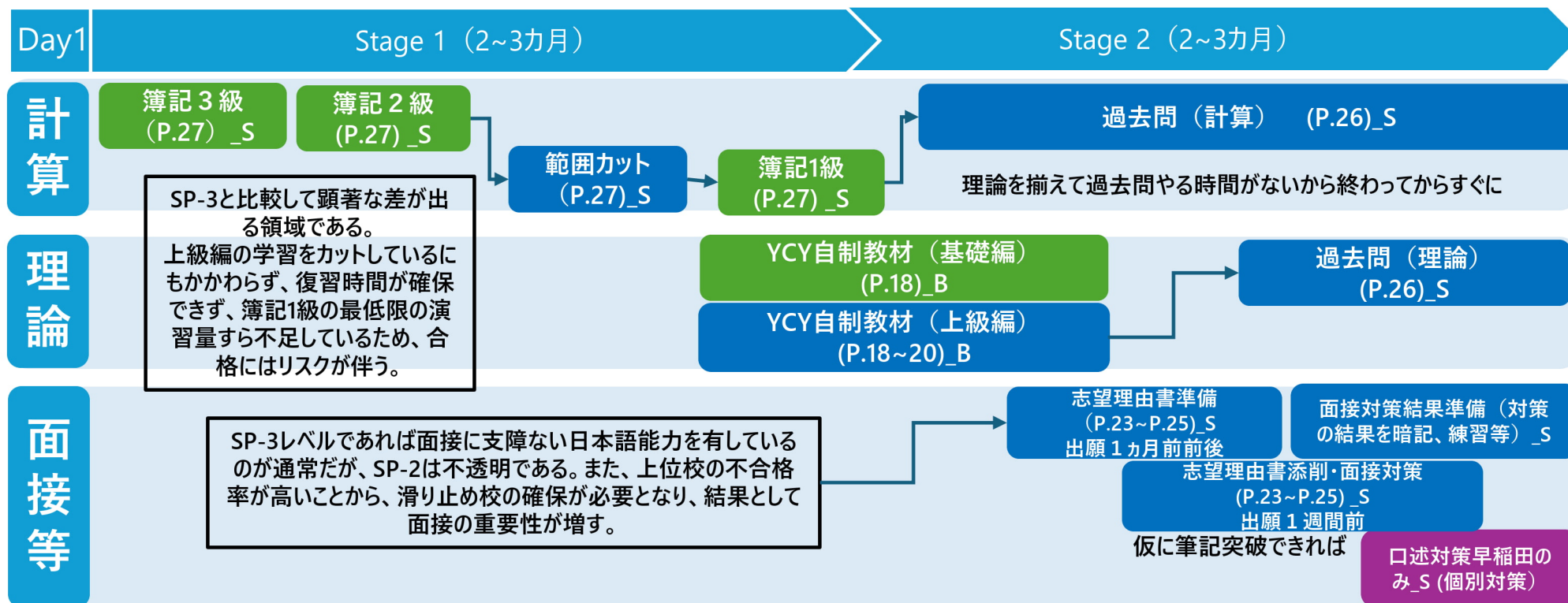
凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部の学校のみ必要
該当ではない場合無視

モデル|SP-3（概要）

P.10

十分な学習時間と質を確保できる「黄金律」といえるモデルである。取りこぼしなく学習範囲を網羅し、本番で正常な実力を発揮できれば、概ね志望通りの結果を勝ち取ることが可能である。

SP-3の概要 早大・東北大の専門職（標準モデル）

大区分	科目	合格レベルの目標値	重要度	備考
計算	財務会計	簿記2級 + 1級ピックアップ	高	1級は1級全部の2割 早稲田は連結多めため3割
	管理会計	簿記2級 + 1級ピックアップ	高	1級は1級の2割 原価計算基本1級不要
理論	財務会計	網羅的、体系的	高	
	管理会計	網羅的、体系的	高	しかし、原価計算は表面的
その他	面接	通常筆記突破できる人が 無難	中	早稲田だけ
	口述	理論知識を軸にアウト プット能力	高	早稲田だけ

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 原価計算の理論勉強について疑問あるとき、(P.28)#2に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.33に参照

SP-3(早大・東北大の専門職（標準モデル）)

- 目標達成に向けた最適ルートを選択：**十分な学習時間が確保できる場合、開始時点のレベルに関わらず、努力を継続することで合格率を最大化できる。半年程度の準備期間を設けて注力すれば、合格の可能性は極めて高い。
 - 理論の網羅性と計算の重点学習：**いずれの大学院も、簿記1級合格レベルまでの計算力は求めている。計算は出題範囲に絞って効率的に対策すべきである。一方で、理論を体系的に習得する時間を確保できるため、網羅的な学習を行うことが大きなアドバンテージとなる。
- 基本問題の完答が肝要：**両大学の過去6年分にわたる入試傾向の分析によれば、合格者標準レベルの問題を確実に得点できるこそが理想的な合格モデルである。計算・理論ともに、指定された範囲内での失点を最小限に抑えるべきであり、学習範囲を無制限に拡大する戦略は無謀といえる。
 - 計算対策：**簿記2級を基礎とし、1級の重要論点を積み上げていく。特に追加した論点において、本試験でどの程度得点できるかが合否を分ける（なお、東北大学は財務会計1級レベルの論点は出題されない傾向にある）。
 - 理論対策：**SP-1と比較して、体系的な理論学習が強く求められる。かつては理論を放棄し計算のみで合格可能な時期もあったが、競争が激化している現状では推奨されない。

モデル|SP-3 (Roadmap)

P.11

対策期間は6～8か月に及び、長期戦の苦痛を伴うが、その分見返りは大きい。理論・計算ともに反復復習に投じる時間がSP-2とは桁違いであるため、過去問演習の段階で圧倒的な実力の伸びを実感できる。

凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部の学校のみ必要
該当ではない場合無視

Day1

Stage 1 (3~4カ月)

Stage 2 (3~4カ月)

計算

簿記3級
(P.27)_S簿記2級
(P.27)_S範囲カット
(P.27)_S簿記1級
(P.27)_S

過去問 (計算) (P.26)_S

理論

YCY自制教材 (基礎編) (P.18)_B

YCY自制教材 (上級編) (P.18~20)_B

過去問 (理論) (P.26)_S

面接等

SP-3は4～5か月かけて理論のアウトプットを徹底しているため、
相応の表現力が期待できる。志望理由書などは自力で作成
可能であり、あるいは口述対策の一環として対応すれば十分で
ある。

仮に筆記突破できれば

口述対策 (P.X)
早稲田のみ_S_(個
別対策)

モデル|SR-1（概要）

P.12

理論と研究計画書に対して一定の努力を投じれば、十分に合格圏内に入るルートである。ただし、学習態度が著しく不真面目な場合は、受け入れ拒否（不合格）となるリスクがあるため注意を要する。

SR-1の概要_旧帝大・早慶線以下の研究者

大区分	科目	合格レベルの目標	重要度	備考
計算			存在しない	
理論	研究範囲	絞って体系的に	高	自分の研究範囲すらあやふやだったと①面接②研究計画の執筆に支障出る
	財務会計	表面的な知識	高（Not研究範囲の時、中）	表面的な知識を最低限必要
	管理会計	表面的な知識	高（Not研究範囲の時、中）	表面的な知識を最低限必要
研究計画書	そのものの質	ある程度網羅的、倫理的、集約的	高	筆記試験以外ほぼこれを勝負することに注意
	面接	質問応答に耐えられる準備程度	高	

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 実証と理論研究はなぜ必ずテーマ決める段階で固める必要があるかについて、(P.30)#6に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.35に参照

SR-1（旧帝大・早慶未満の研究者志望）

- 理論：**特に地方大学においては慢性的な学生不足にあり、筆記試験における市場均衡点は、表面的な理論知識に欠落がなければ合格水準に達する。しかし、自身の研究領域を深掘りしなければ、妥当な研究論文を執筆すること自体が困難となり、大きな不利益を被る。
 - 研究意義の説明不能リスク：**研究動機や問題意識、研究の意義について明確な回答ができなくなるリスクが高い。
 - 先行研究の理解不能リスク：**先行研究の執筆者が提示する論点を正確に把握できない場合、研究の継続は極めて厳しくなる。
- 研究計画書：**学生不足を背景とした「熱意による入学」も一つの策ではあるが、研究計画書の質が著しく低い状態での出願は、リスク回避の観点から推奨されない。
 - 熱意入学：**現状、十分な研究計画書を作成する能力が欠如しているものの、姿勢や態度を評価されての合格を目指す形態を指す。
 - 熱意入学を回避すべき理由：**合格後に「院生」としての期間を課される可能性があるほか、最終的には修士論文を完成させる必要があるため、安易な選択は控えるべきである。
- 面接：**熱意が評価対象となるケースもあるが、筆記試験通過後は、面接を通じて「受け入れ可能な水準」に達していることをアピールすることが肝要である。
 - 論文完成の可能性：**現在の骨子状態にある研究計画書を肉付けし、当該大学院の院生として相応しいレベルの論文へ昇華させられることを示す。
 - 適性の証明：**研究計画書の作成に外部の支援が介在したとしても、面接の場において、指導教官の指導の下で論文を完遂できる能力を有していることを証明する必要がある。

モデル| SR-1 (Roadmap)

P.13

理論は基礎編のみを対象とし、上級編には踏み込まない。その分、整備された研究計画書の作成に注力する「平和なルート」といえる。

凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部のみ必要
該当ではない場合無視

Day1

Stage 1 (2~3カ月)

Stage 2 (2~3カ月)

理論

YCY自制教材（基礎編） (P.18)_S

緊急を要する場合、
やむを得ず研究テーマを
先行して決定し、理論学習と
並行して進めるという例外的
な対応もあり得る。

過去問対策 (P.29)_A

研究テーマに関する内容の学習

実証ならば必須
実証研究のための
統計学基礎

面接等

研究計画書準備①テーマ決め
(P.21~P.22)_S
出願2カ月前前後

研究計画書準備②形成 (P.21~P.22)_S
出願 1 週間前目安に完成

モデル| SR-2（概要）

P.14

学生不足などの入試好材料が期待しにくい大学をターゲットとするため、理論・計画書ともに高い完成度が求められるが、時間が極めてタイトである。理論学習と計画書作成を同時並行で進める負荷に耐えられるかが成否を分ける。

SR-2の概要_旧帝大・早慶線以上の研究者(時間足りない)

大区分	科目	合格レベルの目標値	重要度	備考
計算		存在しない		
理論	研究範囲	絞って体系的に	高	自分の研究範囲すらあやふやだったと①面接②研究計画の執筆に支
	財務会計	可能な限り体系的	高（Not研究範囲の時、中）	表面的な知識を最低限必要
	管理会計	表面的な知識	高（Not研究範囲の時、中）	表面的な知識を最低限必要
研究計画書	そのものの質	相当程度網羅的、倫理的、集約的	高	筆記試験以外ほぼこれを勝負することに注意
	面接	質問応答に耐えられる準備程度	高	

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 実証と理論研究はなぜ必ずテーマ決める段階で固める必要があるかについて、(P.30)#6に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.36に参照

SR-2（旧帝大・早慶以上の研究者志望／時間不足層）

- この水準の大学院では、慢性的な学生不足の状況下であっても、「受入基準に達しない者は不合格とする」という原則論が貫かれる。そのため、時間の不足は致命傷になりかねない。合格への期待値を現実的に見極めつつ、必要水準を維持するためには、多方面にわたる戦略的な工夫が不可欠である。
 - 理論：**筆記・面接の双方で要求される能力水準がSR-1から大幅に上昇する。時間的制約は理論学習において致命的だが、財務会計を優先し、体系的な知識を拾える範囲内で最大限挽回を図る必要がある。
 - 研究計画書：**構造的に網羅性の高い研究計画書が要求される。引用範囲が専門領域外へも拡大するため、会計理論の基礎を固めないまま作成すると、計画書全体の論理が支離滅裂になるリスクがある。
- 理論学習と研究計画書作成の両立：**SR-1のような表面的な学習では不十分であり、理論の深化と計画書の作成を並行して進める必要がある。この過密なスケジュールに耐えうるかどうか、本モデルにおける成否の分岐点となる。
 - 面接：**SP-1（専門職大学院）水準の基礎知識に加え、執筆予定の論文に対する深い理解が求められる。大学院側が黙認している最低限の期待水準は高いため、論点を深掘りされた際にも的確に応答できるよう準備する必要がある。

モデル| SR-2 (Roadmap)

P.15

研究者志望にとっての鬼門である「上級理論」と「研究計画書」に同時に向き合う必要があり、極めて過酷なルートとなる。

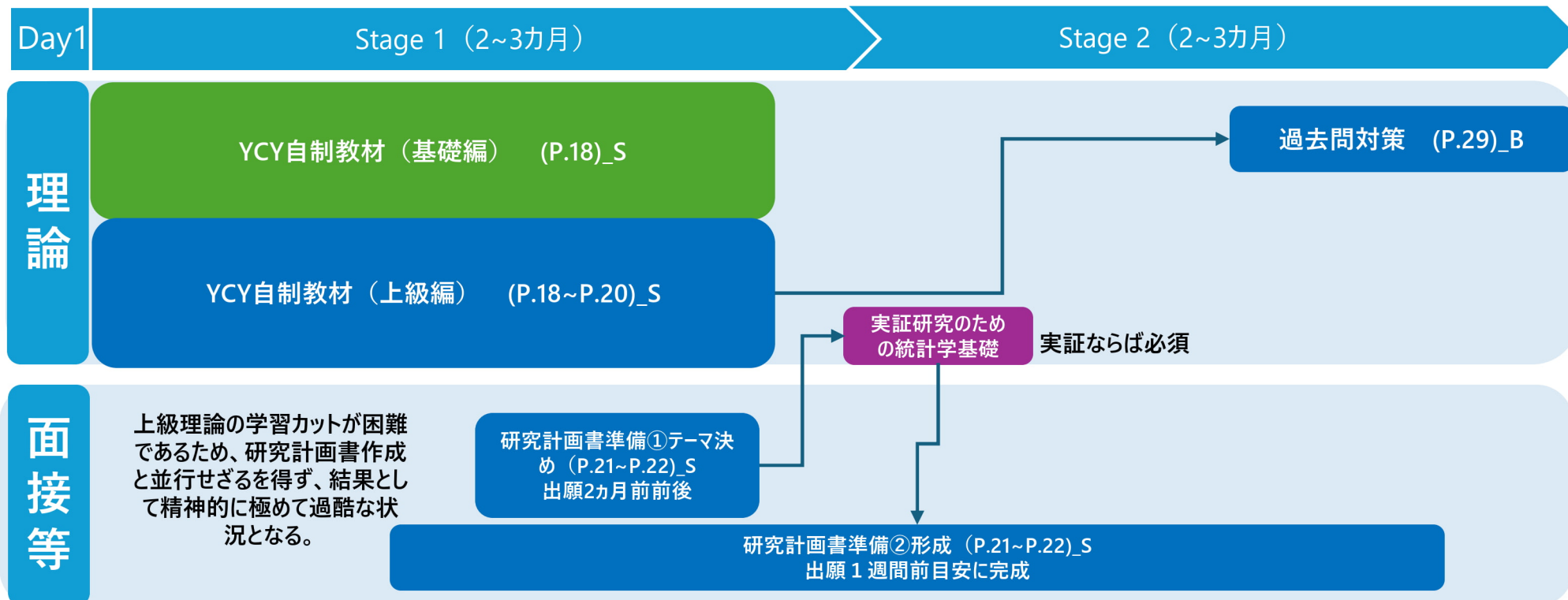
凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部のみ必要
該当ではない場合無視

モデル| SR-3 (概要)

P.16

英語要件を除けば、このルートに乗った時点で合格の半分は手中に収めている。残りの半分は、いかに時間を活用して理論の質を高め、計画書を高い水準で仕上げるかにかかっている。

SR-3の概要_旧帝大・早慶線以上の研究者_標準モデル

大区分	科目	合格レベルの目標値	重要度	備考
計算		存在しない		
理論	財務会計	網羅的、体系的	高	研究エリアが当然網羅的になる
	管理会計	網羅的、体系的	高	しかし、原価計算は表面的
研究計画書	そのものの質	高度に網羅的、倫理的、集約的	高	筆記試験以外ほぼこれを勝負することに注意
	面接	倫理的、網羅的に、学術的に解説	高	

SR-3(旧帝大・早慶線以上の研究者)

- 英語学習時間の考慮：**本モデルを維持できるか、あるいはSR-2（時間不足層）へ移行するかは、英語対策に要する時間配分に依存する。英語学習に充てる時間をあらかじめ差し引いた上で、学習計画を策定されたい。
 - 英語能力が著しく低い場合（TOEIC 600点未満等）：**これまでの学習不足を補うために、相応の時間投下が必要となる。十分な時間を確保できない場合は、志望校のランクダウンも検討せざるを得ない。
- 時間的余裕を活かした最適ルートの選択：**十分な学習期間が確保できれば、現状のレベルに関わらず、努力次第で合格の可能性を最大化できる。半年程度の準備期間があれば、合格圏内への到達は十分に可能である。
- 体系的な理論学習と研究計画書作成の順序：**上級論点まで網羅的に学習し、アウトプット能力を十分に身につけた上で、研究計画書の執筆に着手する設計を推奨する。
- 理論の習熟度と計画書の質の両立：**SR-2と比較して時間的猶予があるため、理論問題集の反復（回転）と知識の横断的展開を強みとすることが、他者との差別化要因となる。また、研究計画書に十分なりソースを投下できるため、論理構成の整った計画書作成と、万全な面接準備を行うことが肝要である。

留意事項

- 合格レベルの目標値について疑問あるとき、(P.30)#5に参照
- 実証と理論研究はなぜ必ずテーマ決める段階で固める必要があるかについて、(P.30)#6に参照
- 原価計算/監査論の理論勉強について疑問あるとき、(P.28)#2に参照
- 過去当該モデルに判定した人の状況についてP.36に参照

モデル| SR-3 (Roadmap)

P.17

上級理論と計画書作成を別フェーズで進められるため、双方の質が向上する。SR-2と比較して反復復習に2倍以上の時間を確保でき、知識の定着率が極めて高い。

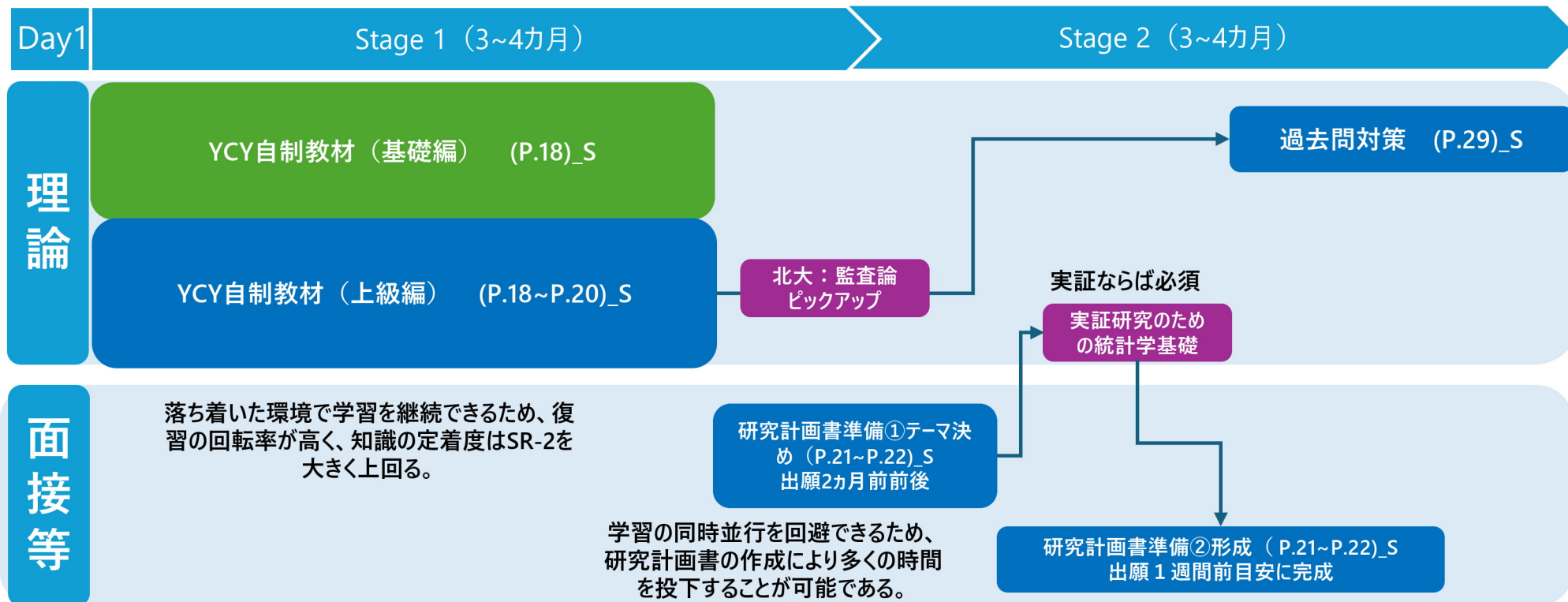
凡例

重要度：S=必ず合否影響するから、しっかり対策 A：対策しない時合否影響大きい B:対策しない時合否影響はAランクの半分 C:時間余裕あれば対策

YCY提供有料サービスあり

完全無料資源で自学で対策可能

有料も無料も資源ないが、類似資源ある

一部のみ必要
該当ではない場合無視

理論学習| 概要

P.18

基礎編は「広く浅く」語彙を網羅するイメージだが、それだけでは語句の繋がりを欠き、上位校には通用しない。上位校合格には、右図（体系的・深化）のような膨大な学習時間を要する体系的理解が不可欠である。

過去開示例に基づく解説（基礎編）

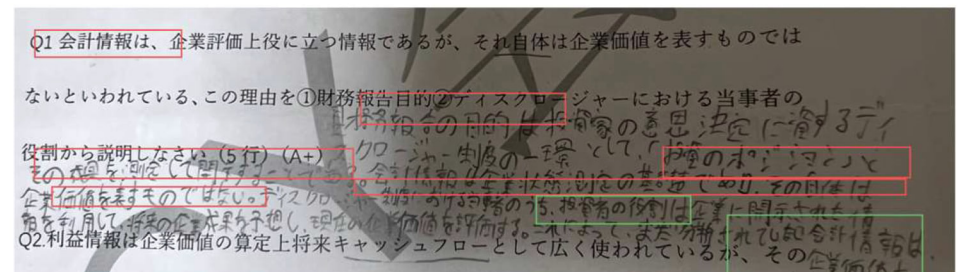
前提：SP-1/SR-1（基礎）とそれ以外（上級）の目標水準が異なる。

- SP-1、SR-1の目標水準：基礎編の以下の設問を習得すること。
 - 基礎Q1.1：概念フレームワークが想定されている財務会計の主な目的は何かを以下のキーワードを用いて解答せよ（A+）
「投資家」「予測」「企業価値」「財務状況」
 - 基礎Q2：ディスクロージャー制度のうち、主な当事者2つ挙げなさい（キーワード）（A+）
- SP-1、SR-1以外の目標水準：上級編（財務第2分冊）の以下の設問を習得すること。
 - 上級Q1：会計情報は、企業評価上役に立つ情報であるが、それ自体は企業価値を表すものではないといわれている、この理由を①財務報告目的②ディスクロージャーにおける当事者の役割から説明しなさい（5行）（A+）
- Step1：テキストの該当章を参照し、基礎Q1.1およびQ2に対し以下の解答を導出する。
 - 基礎Q1.回答：「投資家」による企業成果の「予測」と「企業価値」の評価に役立つように、企業の「財務状況」を開示する
 - 基礎Q2回答：投資家→資金提供・投資予測、経営者→情報開示・資金調達
- Step2：公開されている正答と自身の答案を照合する。

結果：SP-1およびSR-1志望者はStep2で完了となるが、上級志望者の場合、基礎設問の正答を把握しているのみでは、上級Q1への対応は困難である。したがって、SP-1/SR-1以外の人は、右記の上級編の勉強が必要である。

過去開示例に基づく解説（上級編）

- Step3：以下に、2年前の受講生が作成した上級Q1（※原文Q2より修正）の答案を提示する。



- Step4：YCYによる評価・フィードバック（採点后、答案に付記して提供）
 - 採点基準に基づく評価：個別指導（1V1）における根拠とするため、答案の不足点を明確化する。

財務報告の目的→1点

投資家は自己責任→1点

よって、会計情報≠企業価値そのもの1点

予測上役に立つだけ旨2点

3/5

投資家の責任不足
役に立つだけと説明不足

- 個別指導（1V1）時の解説：付記されたコメントに基づき口頭で解説を行う。なお、完全正解の設問については解説を省略し、時間の効率化を図る。得点が著しく低い答案については、無料での再提出および再採点を実施する。

Q1 会計情報≠企業価値だから→役に立つだけ
（つまり、経営者による財務開示は、事実の開示だからというロジック）
このロジック理解していないと、次の自己のれんの問題も解けないため、しっかり理解しよう

理論値100万→1万株発行→理論株価100
現在株価=80
買うべき→20上がるはず
ただし、実際株価は50しかない...
→30の損失はだれの責任？

理論学習| Why YCY

P.19

網羅的な自製教材を軸に、公認会計士としての受験・実務経験を活かした1V1の柔軟な指導を行う。なお、SP-1およびSR-1は基礎編（無料）のみで対応可能なため、上級編の検討は不要である。

ポイント1

厳選された自製教材

- 公認会計士の視点から独自に作成した教材は、東北大学・早稲田大学の専門職大学院、および早慶以上の私立・旧帝大の研究科における試験範囲を網羅している。
- 単なる知識の習得に留まらず、アウトプット能力の向上を主眼に置き、理論の徹底的なマスター、採点基準の提示、および知識の横断的展開手法を網羅している。

ポイント2

専門知識と卓越したテクニックの両立

- 2020年の会計士試験合格後、監査現場で3年、FAS（ファイナンシャル・アドバイザー・サービス）にて1.5年の実務経験を有し、M&Aに関する高度な知見も備えている。
- CFA（米国証券アナリスト）試験レベル2にも合格しており、多角的な観点から上級知識を指導する。
- 会計士試験を通じて蓄積した難問・悪問への対処法を教材に反映させているほか、文章構成や用語法といったソフト面でのスキル対策も実施する。

ポイント3

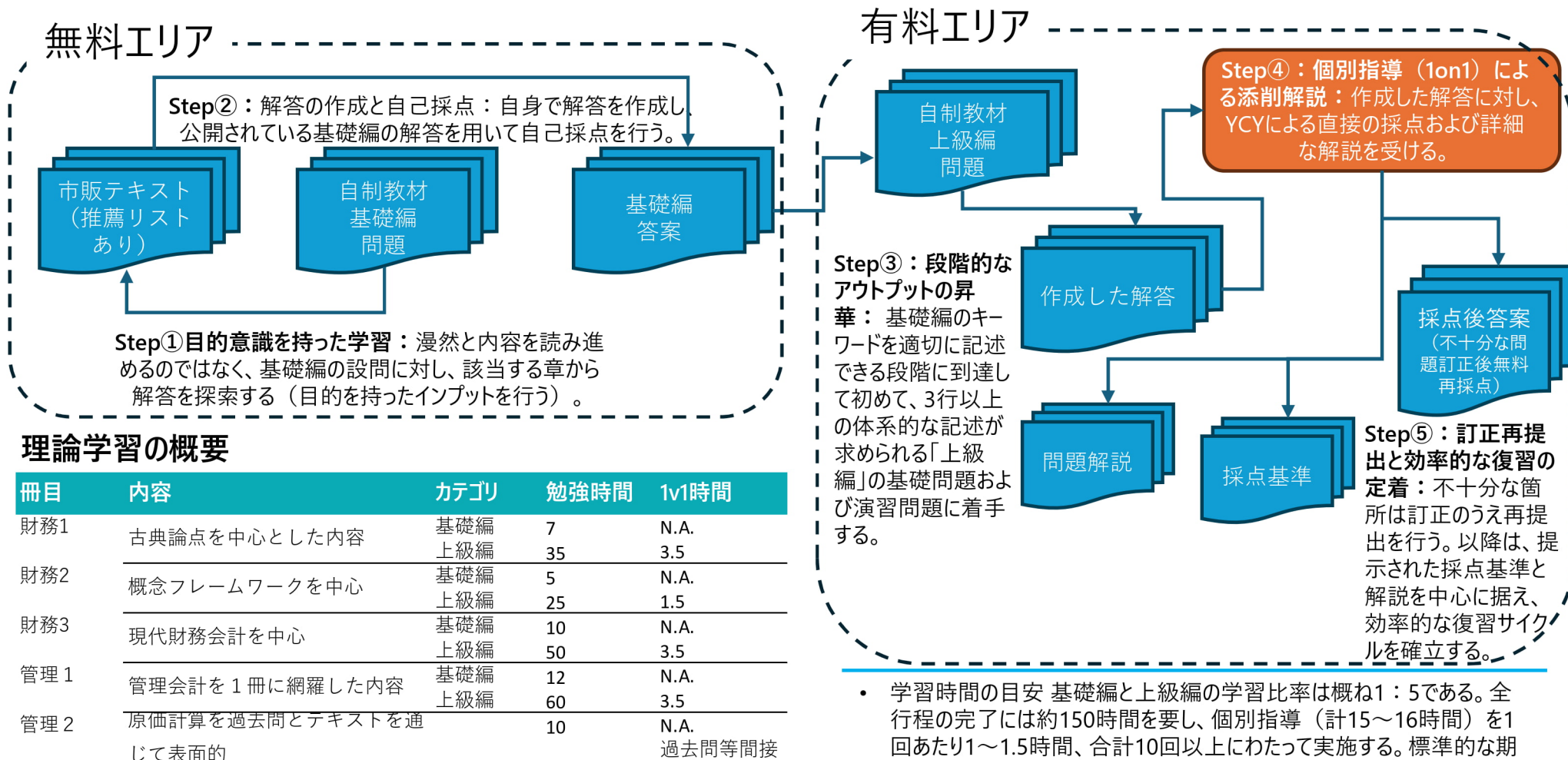
柔軟な対応と充実したサポート体制

- 個別指導（1V1）の合計時間は標準で14時間前後であり、毎回精算を行う方式を採用している。
- 受講期間は通常3～5ヶ月を想定しているが、短期間に集中的な学習が可能な場合は1ヶ月での完了も対応可能である。
- 理解が不十分な箇所については、個別指導後に無料で再提出・添削を行う機会を提供している。

理論学習| 自製教材の詳細

P.20

採算性の観点から、YCYが直接関与するのは上級編の採点や1V1指導に限定される。一方で、基礎編については既に答案を公開しており、SP-1やSR-1の志望者は完全無料で利用可能である。



注1：勉強時間はあくまでもすでにゼロから完成した人たちの体感の時間である。

注2：1v1時間は大体統計的に完成した人がかかる時間で、誤差あっても±1h前後である。

- 学習時間の目安 基礎編と上級編の学習比率は概ね1：5である。全行程の完了には約150時間を要し、個別指導（計15～16時間）を1回あたり1～1.5時間、合計10回以上にわたって実施する。標準的な期間としては、約5ヶ月を要する大規模な工程となる。
 - 上級編に要する時間の背景や、体系的な理論学習の定義、基礎編と上級編の相違については次頁にて解説する。
 - 「原価計算」が提供範囲外である理由については、(P.28)#2を参照されたい。

(研)計画書指導|概要

P.21

計画書作成は数回の1V1指導を通じた「破壊と創造」の繰り返しであり、精神的な負荷が高い。初期段階で誤った方向に突き進む「時間の浪費」を防ぐことが、指導の最大の価値である。自己参加型の作成こそが、後の面接での最大の武器となる。

テーマ決め・実証理論決め

スケジュール：1週間ぐらい

- ・出願2か月前後
- ・理論勉強が終了また第三冊目の途中

受講生のはの理論自製教材を使用しているため、通常の1V1指導の中で決定

YCY

受講者

スケルトン化から肉付け・面接対策

前提知識の補足や内容の討議を複数回実施する。

YCY

受講者

研究の方向性提示や、次段階の作成ポイントを指示する戦略的指導役を担う。

研究計画書
スケルトン

完成版

研究計画書の質
問応答稿

専門職大学院とは異なり、研究計画書を軸とした質疑応答となるため、徹底した対策が不可欠である。

実際に先行研究を探索し、その内容を文書へと落とし込む「執行役」としての役割を果たす。

研究計画書指導

・ **テーマの決定プロセス**：理論学習の過程で候補を抽出する手法は、受講生自身の主体性を高めるだけでなく、学術的にも有効である。大学院レベルでは、自身の専門領域から著しく逸脱しない限り柔軟に受け入れられる傾向があるため、特定の学校・先生に縛られすぎない広範なテーマ設定を推奨している。

- **テーマの決定プロセス**：理論学習の過程で候補を抽出する手法は、受講生自身の主体性を高めるだけでなく、学術的にも有効である。大学院レベルでは、自身の専門領域から著しく逸脱しない限り柔軟に受け入れられる傾向があるため、特定の学校に縛られすぎない広範なテーマ設定を推奨している。

- **ターゲット校主導の選定（例外・少数／時間不足時）**：志望校の先生の研究領域をリストアップし、消去法によって残った領域から研究テーマを立候補させる手法。

・ **実証・理論の選択**：数学や統計学の学習経験、英語力、残された準備期間などを総合的に判断しアドバイスをを行うが、最終的には受講生の意思を最大限に尊重する。

・ **スケルトン作成と肉付け**：修正対応・進捗確認・フィードバックの反復という、極めて負荷の高いサイクルを経て、研究計画書の質を担保する。YCYの役割はこの心理的・作業的負荷を軽減することにあるが、このプロセス自体を完全に回避することは不可能である。

・ **YCYによる支援の核心**：膨大な時間を無駄に投下することはモチベーションの低下を招くため、早期に課題を発見し、建設的な行動へ導く。

- **「自傷行為」の阻止**：先行研究が存在しないものや、結論の導出が不可能なテーマへの着手を阻止し、時間と意欲の浪費を防ぐ。

- **方向性の提示**：調査が難航する論点に固執せず、早期にスケルトンの変更や迂回戦術を講じることで停滞を打破する。

- **不可避なプロセス**：外部の支援があっても、先行研究の読み込みや資料の探索は、依然として多大な労力を要する作業であることを理解されたい。

・ **面接への結実**：代行業者へ一任したり、形式的に作成したりした者とは異なり、この「苦痛の循環」を経て自ら計画書を完成させた受講生は、既に深い知見を手に入れている。その努力は、説得力のある面接応答として結実し、堂々と本番に臨むための最大の武器となる。

(研)計画書指導| Why YCY

P.22

実務の第一線にいる知見を活かし、テーマ選定から肉付けまで、無駄のない設計を支援する。完全に外部に頼り切った計画書と異なり、自ら思考して作成することで、面接における「ボロが出る」リスクを最小限に抑える。

ポイント1

実務の最先端知見と多角的な支援

- これらの論点の存在自体が受講生にとっての宝庫であるが、それをいかに抽出し、研究材料へと昇華させるかが課題となる。公認会計士としての監査実務、およびFASでの実務経験を通じ、実務上の最先端の課題を迅速かつ深く理解している強みがある。
- 実証研究に関しては、CFA（米国証券アナリスト）レベル2の体系的な学習に基づき指導を行う。厳密な計量経済学の専門家レベルではないものの、会計学の大学院生が執筆する実証論文に対しては、十分な指導能力を有する。
- 「自身で論文を書いた経験から、なんとなく数式を理解している」といった曖昧な指導ではなく、統計モデルにおける問題点（分散不均一性、多重共線性など）の可能性とその解決方法まで、体系的に解説する。

ポイント2

指導実績に基づく、初期段階での「脱線」と「無駄」の排除

- 膨大な時間を投下しながら成果が出ない、あるいは論理構成の破綻により「研究の意義は何か」という根源的な批判を受けることは、受験生にとっての悪夢である。長年の指導経験を活かし、初期段階からこうした落とし穴を回避させるとともに、研究の核心部分から逸脱しないよう徹底して守り抜く。

ポイント3

自己参画型の指導による「負債」の解消

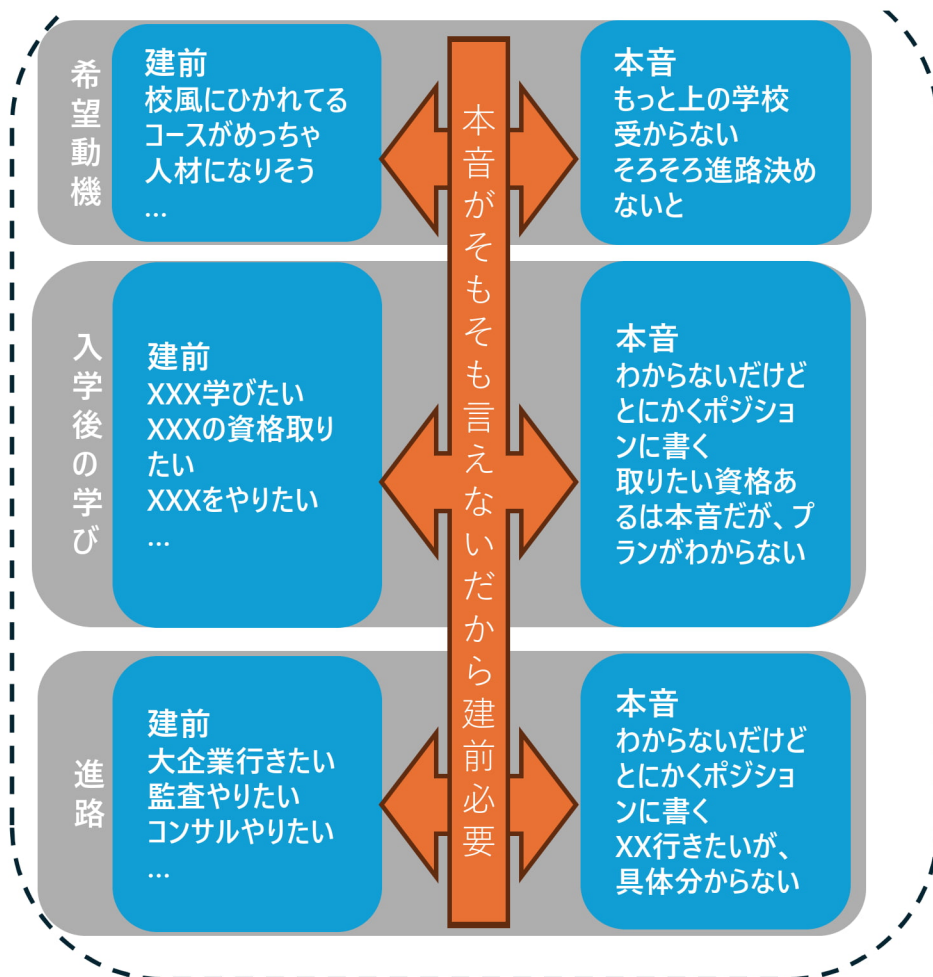
代行業者に作成を依頼したり、AIを用いて表面的に整った計画書を安易に作成したりすることは容易だが、それは将来的な「負債」となる。自身の思考を経っていない内容を自らの成果として提示すれば、面接の場で厳しく追及されるリスクが高い。自ら主体的に参画し、作成するプロセスを経るからこそ、自信を持って面接に臨むことが可能となる。

(専)面接対策|概要

P.23

面接は「建前」の論理的耐久力を測る場である。本音を大義名分（建前）へと昇華させ、執拗な質問や業界の常識に照らしても矛盾が生じない「嘘ではない真実」を構築すること。この整合性の準備こそが面接対策の要諦である。

典型 3 段式の希望理由書



面接対策

- **面接の本質**：面接は用意した建前が、執拗な質問への耐久力を測る場であると同時に、人柄や日本語能力などを総合的に評価するプロセスである。
- **評価者の視点（建前と本音）**：上位層の評価者は、受験生の「建前」が必ずしも「本音」ではないことを当然熟知している。例えば、新人が上司に「先輩は優しく、指導も手厚い」と答えた際、上司がその言葉の裏にある本音を察しないはずがない。学術・実務を問わず、指導的立場にある者は相応の経験を有しているものである。
- **建前と真実の境界線**：建前は決して「嘘」と同義ではない。執拗な質問に耐えうる論理性があれば、それは真実として成立する。例えば本音では「入学後の学習」や「進路」が不明瞭であっても、「公認会計士を目指す」という目標は極めて前向きな「大義名分（建前）」となり得る。
 - **ケース1：情報の不整合**「公認会計士を目指す」と宣言しながら、短答式・論文式の試験科目を回答できない場合。3,000時間の学習を要する人生を賭けた試験に対し、基礎知識すら欠如している事実は、その志望動機が「嘘」であることを即座に露呈させる（※青山学院大学院不合格、後に明治大学院で挽回した実例）。
 - **ケース2：論理的整合性への追及**「アルバイトをする予定か」との問いに対し安易に肯定した結果、「1日の学習8時間、講義3時間、私生活の時間を考慮した上で、さらにアルバイトを行う体力的な余裕はあるのか」と皮肉を込めて追求された例（※明治大学院の実例）。
 - **ケース3：業界常識との乖離** 進路に対し「就職活動を頑張る」と記載した場合。米国公認会計士（USCPA）ならいざ知らず、日本の公認会計士試験合格者の99%は、通常の就職活動を経ずに監査法人へ入所するのが一般的である。この基本的事実を知らず、一般的なルートから逸脱する理由も説明できない場合、その計画は「嘘」と見なされる。
- **結論**：志望理由書の要諦は、自身の本音を「入学試験」という厳格な場にふさわしい「建前」へと昇華させているかにある。面接対策とは、その場であなたが掲げた建前が、あらゆる角度からの質問に対して矛盾なく成立するかを確認する「準備」に他ならない。

(専)面接対策| Why YCY

P.24

単なる日本語の添削はAIや日本語学校に任せればよい。そもそも専門指導というものの意味は、質問に耐える「強固な建前」を構築することにある。公認会計士として会計系試験と経理現場両方を熟知し、多くの事例を蓄積しているからこそ、説得力のある回答を設計できる。

ポイント1

公認会計士としての実務経験：監査3.5年、現職FASによる業界精通

- ・ 会計士試験ルート：志望動機に会計士ルートを掲げる際、重点を置くべきポイントや適切な試験計画の策定を助言する。合格者の視点から、実態とかけ離れた、常識を欠く計画や内容を事前に排除することが可能である。
- ・ 一般新卒採用ルート：会計士ルート以外の進路を選択する場合でも、監査やFASの現場で日常的に経理担当者と接し、企業の財務報告プロセスを熟知している知見を活かした指導を行う。

ポイント2

豊富な指導実績：蓄積された経験による確実な対応

- ・ 最適モデルの構築：多様なバックグラウンドを持つ受験生の合格実績に基づき、好事例を横展開。個々の受講生に最適な「ゴールドモデル」を構築し、論理破綻のない独自ストーリーの作成を支援する。
- ・ 戦略的面接対策：蓄積されたデータに基づき、想定される適切な回答内容を提示。重要なポイントに絞り込んだ精度の高い面接原稿を作成する。

ポイント3

予算に応じた柔軟な対応

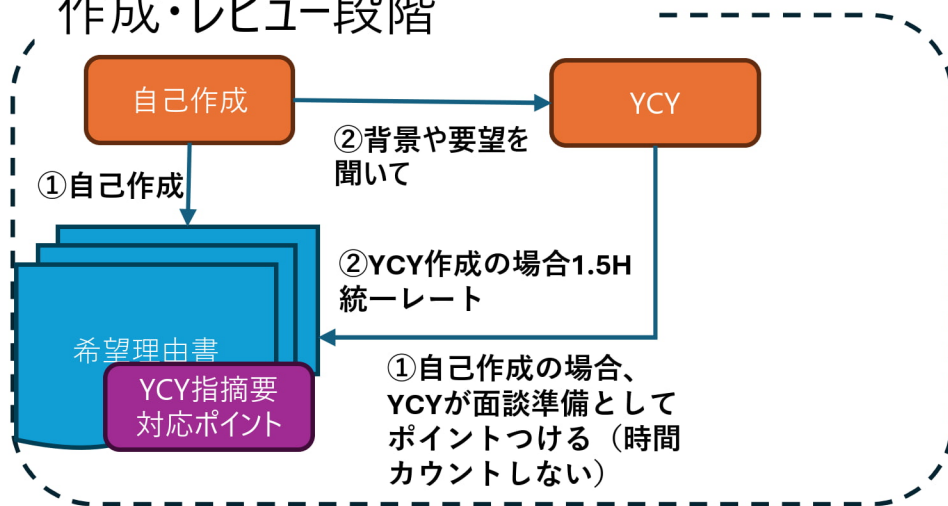
- リソースに合わせたプラン：受講生の経済的予算および時間的予算を考慮し、最短1時間からの時短対策が可能である。要望に応じて、より詳細な面接原稿を対話形式で作成することもできる。
- 実践的な1on1指導（必要に応じて）：面接原稿の習得後、完全日本語による模擬面接を複数回実施する1V1セッションを設定し、本番に向けた最終調整を行う。

(専)面接対策| 詳細

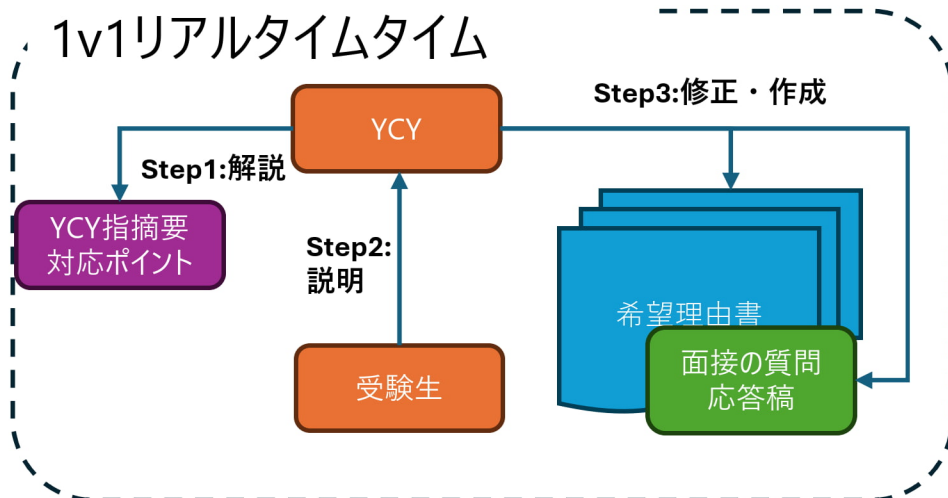
P.25

自己作成を軸に「本人らしさ」を重視。個別指導では本音と建前を整理し、論理破綻や表現を臨機応変に修正する。不適切な動機も説得力ある建前へ昇華させ、面接の追求に耐えうる整合性の高い理由書を共に作り上げる。

作成・レビュー段階



1v1リアルタイムタイム



面接対策

作成・レビュー段階

- **志望理由書の作成**：原則として受験生本人が作成する。自力での作成が極めて困難な場合に限り、YCYが本人の希望やバックグラウンドをヒアリングした上で代筆することも可能である。ただし、理由書は日本語能力もさることながら、「作成者本人らしさ」をアピールすることが最重要である。代筆された内容は自身の思考と乖離し、後のプロセスで不都合が生じるリスクがあるため、可能な限り自己作成を強く推奨する。
- **YCYによる指摘事項**：面接の場で想定される質問や、長年の傾向から頻出とされる問題、さらには論理的破綻により追及を受けそうな箇所を特定する。日本語の表現が著しく不自然、あるいは意味が通じない場合は指摘を行うが、原則として原文の修正は行わない方針である（別途要望がある場合を除く）。

1V1リアルタイム段階

- **YCYによる解説**：指摘の意図を解説した上で、想定質問に対する回答を求める。この際、言語は中国語でも構わないため、本人の「建前（表向きの理由）」と「本音（真の動機）」をこの場で確認する。
- **受験生**：個別指導の場で口頭にて回答を行い、自身の建前と本音を提示する。
- **YCYによる修正・作成**：面接対策は、個々の受講生の特性に応じた「十人十色」の対応が求められるため、極めて臨機応変に実施する必要があるため、以下は主要な修正パターンであるが、網羅的ではない。
 - **理由書の修正**：論理的破綻により回答不能に陥るリスクがある場合、理由書自体の修正を行う。
 - **建前の構築**：本音が「学歴のみが目的」など、表立って表明できないものである場合、適切な建前を構築する。
 - **本音を昇華させた建前への修正**：一見不適切な本音であっても、熱意や志望動機として適切に伝わるよう変換することで、説得力のある建前へと修正する。

(専)過去問答案

P.26

全設問への解答・解説提供を徹底する。理論問題では詳細な解説に加え、記述式には独自の「採点基準」を明示。計算問題では必ず計算過程を付し、不明点を残さない。受講生が納得できる論理的な解答基盤を保証する。

有料過去問答案

学校	年度	トータル	価格
早稲田	2024～2020	5枚、5年分	200RMB/1年分、 セットの場合 900RMB
無料	2019		
東北大	2022-10～2017/10	8枚、5年分	200RMB/1年分、 セットの場合 1200RMB
無料	2022-4		

留意事項

- 上記以外は有料答案は用意していない、詳細について(P.29)#3を参照されたい。
- 無料サンプル2年分（早稲田、東北大それぞれ1年分）は**小紅書**で確認できる
- SP-2・SR-2判定などで実力が目標校に及ばず、最終的にSP-1・SR-1レベルの学校に滑り止め合格する事例は数多く存在する。こうした受講生から過去問について変な妄想を抱えている人が多く、(P.31)をを参照されたい

- 「他の受講生も回答できないから」といった理由で解説を回避することは決してない。すべての設問に対して解答を提供し、その解答が以下の仕組みに基づいていることを保証する。
- 理論問題：**必ず詳細な解説を付す。また、選択式問題を除き、模範解答のみならず明確な「採点基準」を併せて提示する。

Q4

A×→間接法ならば純額となり、また、間接法と直接法は任意である。

B×→いずれも現金及び現金同等物となる。

C×→営業C Fである。

DO

③経済的事象を会計情報で表現する際、解釈の余地があるか否かを問わずに、会計分類と経済的事象の対応関係を最優先として分類することが求められている。

採点基準：経済的事象→会計情報との対応関係1点、解釈の余地をなくす1点

- 計算問題：**すべての問題に必ず計算過程と解説を有する。

Q4

問2では、現時点で代替案のないことを前提とし、独立した投資案を前提のため、図る必要なのは、半自動生産方式による現金支出原価だけに対して、問3では、相互排他的な投資案であるため、差額原価を計算した結果、半自動投資案のNPVは正であることだけでなく、このNPVは代替案である手作り案よりも高くなる必要があるため、機会原価を考慮した結果、生産個数が増えた。

手	半
P: 15	P: 15
V: 7	V: 3
MR: 8.5	MR: 12.5
ATC: 16000/814	ATC: 22000/314

別紙|A1-重要FQA

P.27

項目	内容	注意事項
#1 計算の勉強方針？	結論：計算学習はすべて「CPA-learning」を活用されたい。経済性・品質ともに最善の選択である。唯一の課題はSP-2およびSP-3（上位校志望）における学習範囲の絞り込みだが、これについてはYCYの個別指導（1回、約1~2時間）で対応可能である。 ・ 圧倒的な品質：公認会計士の名誉にかけて、あらゆる選択肢の中で総合的に最良であると断言できる。主要なコンテンツ制作陣は、講師歴10年以上のベテラン会計士たちである。かつてYCY自身も、わずか十数名の校正者の一人として制作に携わっていた経緯がある。 - 多くの在日中国人向け塾では、講師が簿記2級程度の実力しか持たず、1級を保持していないケースも少なくない。 - 日本語に支障がない受講生にとって、実績・能力が不明瞭な日本人・中国人講師を選ぶか、プロの会計士による教材を選ぶか、その選択は自明であろう。 ・ （余談だが、YCYは本来大雑把な性格で誤植（タイポ）が多く、「タイポ王」と揶揄されながらも校正役を務めていた。） ・ 経済性：簿記3級から1級まで、講義動画、テキスト、練習問題のすべてが無料で提供されている。 - すべての教材が事前に用意されているため、各自のペースで学習を進めることが可能である。 ・ 学習範囲の最適化（カット）：早稲田大学や東北大学であっても、簿記1級の全範囲を習得する必要はない。1時間程度の個別指導（1V1）を通じて、必要な論点をピックアップし、学習範囲を効率化する。	・ ここまで読み進めてきた読者であれば、<u>Googleで「CPA-learning」を検索すれば即座に該当サイトへ到達できることは自明であるが、万全を期するため、念のためここで補足する。</u> ・ そもそも無資格の指導者と争うことは本意ではないが、中には「CPA-learningは無価値であるから、高額な費用を払って自分に習え」と主張する者も存在するようである。これに対抗するため、あえてSNS等でも情報を発信している。 - 小红书：关于CPA-Learning - <u>本音としてYCYの立場からこのようわけわからない人と口論などになるとただで公認会計士の品位を損なうだけと思料</u> ・ YCYのSNSトップに掲示していた「1級無料学習の推奨」投稿は、公開からわずか1週間で4回もの通報を受け、取り下げを余儀なくされた。業界の競争の激しさを物語る出来事である。 ・ この方針を採用する場合、YCYが計算科目で収益を得られるのは、上位校向けのピックアップ指導のみとなる。しかし、<u>受講生の皆様が正確かつ最善の道を歩み、目標を達成することこそが重要である。情報の非対称性を利用して不当に稼ぐことは、プロフェッショナルとして恥ずべき行為であると考えている。</u>

別紙|A1-重要FQA

P.28

項目	内容	注意事項
#2 原価計算は理論自制教材のスコープに入っていないでは？ ※また研究科で、早稲田と北大の監査論も同じ	結論：原価計算は過去問中心の学習となるが、その理由は以下の通りである。 投資対効果（コスパ）の欠如：理想的な学習パターンの「中間に位置」してしまい、コストパフォーマンスが悪く、そもそも需要が極めて低いという前提がある。 - 学習効率の極大化：長年の理論指導の経験から、学習は「体系的な深化」か「表面的な網羅」かの二択に絞るべきである。最も効率が悪いのはその中間である。中途半端に時間を投下しても難問には対応できず、一方で平易な問題はそこまでの時間をかけずとも解けるため、より重要度の高い領域に時間を投下すべきである。 - 学習時間の現実的制約：現在の自製教材（財務3冊＋管理1冊）だけで約150時間の学習時間を要し、復習を含めればさらに膨大となる。管理会計第2分冊として原価計算理論を体系化したい意向はあるが、現状、そこまでの学習意欲を持ち、かつ体系的な深化を求める受講生は稀である。 最小限の対策による成果の確保：完全に対策を放棄するわけではない。特に研究科の入試において、大問形式で出題された際に白紙解答となる事態を避けるため、過去問とテキストをベースとした最低限の対策は実施している。上位専門職大学院についても同様の対応をとる。 教材設計上の工夫：管理会計第1分冊の設計段階において、原価計算の体系的学習を行わない前提に立ち、その悪影響を最小限に抑えるべく、重要な原価計算論点はあらかじめ織り込んでいる。 実績による証明：過去の合格実績を見れば、この戦略は実質的に有効である。原価計算が出題された際、財務や管理（第1分冊）ほどの回答の質は期待できないものの、そもそも他受験生の対策も手薄であるため、致命的な差にはならない。	市場環境の変化への対応：競争の激化により原価計算の体系的学習が不可避となった場合には、新教材を開発する可能性がある。しかし、<u>近年の出題傾向は横ばいであり、現時点ではその必要性は低い。</u> 受講生の現状認識：塾など散漫な学習の結果、自身の理論レベルが不十分であると過去問演習の段階で露呈し、急遽対策を求めてくる受験生の現状を鑑みれば、原価計算がスコープ外であることは欠点とは言えない（<u>それ以前の基礎固めが優先されるべき段階の受講生が大半であるため</u>）。

別紙|A1-重要FQA

P.29

項目	内容	注意事項
#3 本命学校が専門職早稲田、東北大以外で、過去問が販売していないのでは？	専門職大学院_結論：ビジネスにおいて不採算事業と判定せざるを得ない。現在販売している2校以外の大学院については、難易度や需要の観点から、解答を作成してもコスト回収が困難であるため提供していない。しかし、代替案として以下の救済措置を検討されたい。 - 自動計算ツールの活用：YCY個人サイト（アイコン参照）内に原価計算の自動計算ツールを公開しているため、検算に活用すること。 - 自製教材の転用：自製教材に含まれる理論問題の解答は、他校の対策にも有効であるため、積極的に活用すること。 研究科_結論：専門職大学院とは状況が異なる。研究者志望者は理論体系の習得が必須であり、最終的には自力で過去問に対応できる能力が求められる（対応できない場合は学習不足と言わざるを得ない）。そのため、解答の販売は行わず、以下の運用を基本とする。 - 集中演習：理論学習の完了後、志望校および同レベルの大学院の過去問を用いて集中的に演習を行う。 - 個別指導での解決：作成した解答をYCYへ送付し、無料採点后に1～2時間の個別指導（1V1）枠で集中補解説を行う。 - 効率性：1時間の指導で約3～4年分の過去問を消化することが可能である。原価計算が含まれる場合は若干時間を要するが、理論体系を正しく習得していれば、このペースでの解決は十分に可能である。逆にこの時間内で解決できない場合は、学習の質そのものに問題がある。	
#4 学部の専攻は会計以外（会計）だけど、不利（有利）になることありうるか？	結論：根拠のない憶測は控えるべきである。公認会計士であり、それなりに有名な学校の会計分野で学部を卒業したYCYの視点から言えば、ほとんど優位性・アドバンテージが考えられない、理由は以下である。 優位性が最初の最初段階だけ：基礎段階では既習者であることが一助となる可能性はあるが、入試レベルまで難易度が上がれば、そのアドバンテージは即座に消失する。過去5年間、多様なバックグラウンドを持つ受験生を指導してきたが、学部が会計系だからといって特筆して優秀であると感じた例は皆無である。	学部の専攻よりも、上位研究科であれば「英語能力の不足」、研究科・専門職大学院を問わず「日本語能力の欠如」の方が、合否に極めて深刻な悪影響を及ぼす。<u>こちらに注力すべきである。</u>

別紙|A1-重要FQA

P.30

項目	内容	注意事項
#5 必要合格レベルの認識齟齬 ・ XX学校はXXも必要ではないか - 小紅書等のSNSから、何かしらの合格者、市中塾の案内者から聞いた話	・ 結論：YCYの判断を信頼してください。相違が生じる背景には、主に以下の2つのパターンが考えられる。 - 悪意ある煽り型：「私の指導を利用しなければ合格は不可能である」といった前提を植え付け、自社の有料サービスへの勧誘を目的として不安を煽るケースである。 - 悪意なき誤解型：一例として、早稲田大学専門職大学院の口述試験対策で指導したA君のケースが挙げられる。彼は小紅書で自分の合格体験談において「明治大学院は会計士短答式レベル、早稲田は論文式レベルの知識が求められる」と記していた。しかし、実際には明治で求められる水準は簿記2級程度であり、早稲田の要求水準とも乖離がある。A君自身、入学時点で短答式試験に未合格（2025年12月時点でも不合格であり、現在は来年5月に向けて科目免除制度の利用を検討中）であったにもかかわらず、なぜそのような結論に至ったのかは本人当時の勘違いしか言えないだろう。 ※1：明治・早稲田それぞれの実質的な要求レベルについては、括弧内参照。 ※2：指導時の印象では、範囲内の学習には真面目に取り組んでいたが、短答合格レベルには距離がある状態であった。	・ 「煽り型」の論理的欠陥：「あなたには〇〇が欠けている。私は〇〇を熟知しているから、合格には私の指導が必要だ」と主張する。しかし、「 <u>特定の試験に合格している</u> 」ことと、「 <u>その内容を完全に理解している</u> 」、さらには「 <u>他者に正しく教授できる</u> 」ことは、それぞれ全く別の能力である点に注意が必要である。 ・ 「誤解型」への配慮：例に挙げたA君自身に悪意はなく、非常に真面目な人物である。現在も彼の会計士試験への挑戦を応援しているが、 <u>主観的な体感に基づいた誤った情報が、真実として流通してしまうリスクを伝えたい。</u>
#6 Q1:研究者志望はなぜ「理論研究」と「実証研究」を明確に分けなければならぬのか？ Q2:どちらかを選択することで合否が有利になることはあるか？	・ A1:結論：一度選択した後に研究手法を変更しようとすると、建築物を基礎から建て直すほどの多大なコスト（時間・労力）が生じるためである。両者には公平なトレードオフが存在する。 - 理論研究：自身の論拠を先行研究や最新の学説によって支える必要があるため、適切な文献が見つからないリスクを常に伴う。一方で、高度な計量統計学の習得は原則として不要である。 - 実証研究：分析モデルの構築に不可欠な計量統計学の学習が必須となる。その反面、文献レビュー（先行研究の網羅性）に関しては、理論研究に比べれば一定の緩和が認められる傾向にある。 ・ A2：結論：指導先生のお大半はこの2区分に基づき専門性が分かれているため、どちらを選んでも合格に直結するような有利・不利は一切存在しない。先生の専門性と受け入れの傾向は以下の通りである。 - 理論研究専門型：実証研究は指導対象外となるため、実証での出願は門前払いとなるリスクがある。出願前の確認が必須である。 - 併用型（実証・理論）：どちらの手法でも受け入れ可能とされるが、稀に「実証研究」を必須条件とする教官も存在する。 - 実証研究専門型：併用型以上に「実証研究が必須」とされる確率が飛躍的に高まる。	・ 学術界の視点：実証研究に対し「結論（的）を先に決めてから、それに沿うデータを揃えている（射抜いた場所に後からのを描く）」と批判的な見解を持つ先生も少なくない。一方で、若手の先生は実証研究を積極的に導入する傾向にある（後発の研究者が独自の意義を見出すための有効な手段という側面もある）。 ・ 先行研究の扱い：実証研究だからといって、先行研究の読み込みを疎かにして良いわけではない。あくまで「相対的に緩和される」だけであり、その分、分析に用いる実証統計モデルの堅牢性（頑健性）が厳格に問われることになる。 ・ 事前調査の重要性：出願前に希望する指導先生のバックグラウンド（過去の論文や研究領域）を調査することは当然のことである。手法の不一致によって不合格となるのは、事前の調査不足に起因する当然の結果である。

別紙|A1-重要FQA

P.31

項目	内容	注意事項
#7 過去問に関する質問 Q1：捉え方 Q2：直近のものの効果が高い	A1捉え方：過去問演習には「シミュレーション効果」と「サンプリング効果」の2点があるが、重要度は前者の方が高い。サンプリング効果は「壁の穴を補填する」作業に過ぎず、穴だらけの壁（基礎知識の欠如）を過去問のみで修復できるという考えは幻想である。 シミュレーション効果：本番のタイムマネジメント戦術の策定や、各校特有の出題傾向・「癖」に順応するための訓練効果。 サンプリング効果：数年分の過去問を通じて、出題されうる知識群から抽出されたサンプルを確認し、自身の取りこぼしや不足を補填する効果。 A2「直近の過去問ほど価値が高い」という誤解：これも典型的な勘違いである。公認会計士の視点から断言すれば、適用予定だったリース会計等の改正論点を除き、最難関校であっても近年導入された新基準が大学院入試レベルで問われることは稀であり、出題されたとしても難易度が受験水準を超えている。なお、管理会計はそもそも基準という概念がなく、出題先生の色が強いため、規律を捕まえることは難しい。したがって、「直近の過去問だから効果が高い」という事実は存在しない。 - 時間あればサンプリング効果最大のために5年分を目安に徹底すればいい	- 知識の「穴」があまりに多い場合、それは体系的な知識群そのものが構築されていないことを意味する。<u>直前の過去問演習だけでこれを挽回しようとする姿勢は、日々真摯に学習を積み重ねている他の受験生に対する軽視と言わざるを得ない。また、まったく根拠のない「出題予想（押題）」に頼ることも同様である。</u> - 別紙A2に記載の通り、SP-2・SR-2判定などで実力が目標校に及ばず、最終的にSP-1・SR-1レベルの学校に滑り止め合格する事例は数多く存在する。こうした受講生からは「過去問で挽回できないか」との相談が頻繁に寄せられるが、<u>なぜ過去問演習のみでは挽回が不可能なのか、その詳細は以下の通りである。</u> 小红书：关于日本会计的FQA201 会计学系篇

別紙|A2 ゴールドモデル SP-1本命・SP-2からSP-1滑り止め合格

P.32

合格実績アピールではなく、事例開示だからこそ残酷な真実が暴露できる。最初sp-1本命で合格する人ももちろんあるが、sp-2で上位不合格の滑り止めで結局ここになった人は大半である。

項目	内容	コメント
Aさん：志望校ランク調整（滑り止め校へ入学）	経緯：当初は上位校を目指すSP-3モデルで設計し、長期的な理論の伴走指導を開始した。計算はCPA-learningを活用して網羅し、学習の質に多少の波はあったものの、着実に進捗していた。 結果：SP-3が目標とする上位2校も合格圏内であったが、学習の後半にかけて本人の中で大学ランクへの執着が薄れ、公認会計士資格の取得を優先する思考へと変化した。最終的には、併願していたSP-1目標群の学校へ入学した。	順風満帆で合格することが望ましいだが、能力不足で到底届かないことにも人生だから、下留意事項の通りに、真実事例であるこそ、真実の受講生はこのようなケースが多い。
Bさん：学習戦略の転換（滑り止め校へ入学）	経緯：受講開始時点で残り時間が極めて少なかったため、当初はSR-2（上位校・時間不足モデル）に分類された。研究計画書と理論学習を同時並行で進めるといふ、精神的・体力的に最も過酷なルートに突入した。 結果：最終的にはAさんと同様、税理士志望へと舵を切った。研究科（SR）へのこだわりを捨て、SP-1目標群の専門職大学院に合格・進学した。	最初からSP-1本命合格には、時間的猶予がある一方で、計算は簿記2級レベルを基礎とし、理論は最低限のカバーに留めている志望者が多い。
Cさん：進捗停滞による下方修正（滑り止め校へ入学）	経緯：時間的猶予はあったが、来日後1年半にわたり学習が停滞していた。理論は財務第2分冊まで到達したものの、計算については後半のフォローが難しく、実力は来日時の簿記2級レベルに留まっていた。 結果：試験直前期、YCYより「目標校に対する能力不足」の注意喚起を行ったが、本人の学習意欲の減退もあり、最終的に滑り止めとしていた下位校への入学となった。	前述の事例（ABC）と比較して、当初の目標設定が高すぎないため、不必要なリソースの浪費（過剰な対策による疲弊など）が生じにくい点はメリットと言える。 ただし、日本語能力試験（JLPT）N1を保持していない場合、出願資格自体が得られないなどの致命的な不都合が生じる。基礎固めと並行して、語学要件のクリアには細心の注意を払う必要がある。
Dさんおよび数名：初志貫徹（本命校に合格）	経緯：当初から上位校を狙わず、SP-1目標群の合格を第一希望としていた。P.Xのロードマップ通りに計画を遂行し、主に直前期の面接対策（一部、青山学院大学院の口述対策を含む）を実施した。 結果：予定通りSP-1レベルの学校に無事合格。志望理由書については「新卒ルート」「資格ルート」の双方が存在したが、準備次第であり、どちらかが特段有利になる事象は確認されなかった。 総括：筆記試験の有無に関わらず、この層の入試では面接が極めて大きな比重を占めていることが改めて証明された。	

留意事項

事実の保証：本資料に記載された事例は、すべて実在する受講生に基づく真実であることを固く保証する。

事例の選出：提示した事例は全合格者の記録ではなく、学習モデルや戦略の有効性を説明するために、適切に抽出したものである。

合格の帰属と因果関係：試験合格の成否は、受講生本人のたゆまぬ努力が大部分を占めるものである。YCYが提供するサービスと合格の直接的な因果関係を客観的に立証することは困難であり、これらはあくまで個人の努力が実を結んだ結果である。したがって、これらを「YCYの指導のみによる実績」として過大に主張する意図はない。

別紙|A2 ゴールドモデル SP-3本命・SP-2からSP-3逆転合格

P.33

厳格に逆転合格したのは今までもaさん加え、一握り程度だけで、また極めて精神的に辛いためやめてほしい。本命ならば長期伴走を前提で、悪い意味でもいい意味でも勉強時間が長くなり、8月の学校までは少し準備不足の可能性はあるが、10月以後になると基本成熟期になる。

項目	内容	コメント
Aさん：逆転合格（SP-2判定からSP-3合格）	経緯：当初の判定はSP-2（中堅校レベル）であり、計算は簿記2級の基礎レベル、理論は体系的な学習経験が皆無という状態であった。本格的な対策開始から入試まで残り3か月とという極めて厳しい状況下で、計算範囲を最小限に絞り込む一方で、理論は一切妥協せず網羅する戦略を採用した。 結果：3か月間フル稼働で学習に邁進した結果、実力差を覆し、目標としていた上位校（SP-3）への逆転合格を果たした。	結果論ではあるが、他所で過去問の解答を購入したものの、内容が不十分で合格に結びつかなかった受験生から、毎年多くの相談が寄せられる。客観的に見て、こうした層の多くは「SP-2」と判定されるのが通例である。実感を言えば、SP-2と判定された志望者が上位校に合格できる確率は20%にも満たない。留意事項にも記した通り、「逆転合格の事例があるから自分も可能である」と安易に過信すべきではない。最善の戦略は、<u>そもそもSP-2という判定を受けない段階から準備を始めることである。</u>
Bさん、Cさん等：着実な本命合格（長期伴走型でSP-3合格）	経緯：入試の約8か月前から対策を開始した長期伴走型である。計算はCPA-learningを活用し、各自の目標（一人は簿記1級合格、もう一人は厳選した重要論点のみに特化）に合わせて進め、理論は約半年をかけて体系的に深く習得した。 結果：8月に実施された上位校入試では不合格となったが、その後12月に実施された上位校に合格した。客観的な難易度は8月の大学の方が低かったが、当時は計算・理論ともに完成度が不十分であったことが敗因と考えられる。長期間の粘り強い学習が、12月の合格という結実をもたらした。 補足：口述対策のみを受講して合格したケースも存在するが、YCYの指導モデルの本質とは異なるため、ここでは紹介を割愛する。	長期対策ルートは、知識の吸収と定着の質において最も優れている。しかし、復習の回転率がおろそかになると、後半で知識が抜け落ちて逆に不利に働くりスクも孕んでいる。それを差し引いても、<u>能力構築の観点からは最も推奨される「ゴールドモデル」であると思料する。</u>

留意事項

事実の保証：本資料に記載された事例は、すべて実在する受講生に基づく真実であることを固く保証する。

事例の選出：提示した事例は全合格者の記録ではなく、学習モデルや戦略の有効性を説明するために、適切に抽出したものである。

合格の帰属と因果関係：試験合格の成否は、受講生本人のたゆまぬ努力が大部分を占めるものである。YCYが提供するサービスと合格の直接的な因果関係を客観的に立証することは困難であり、これらはあくまで個人の努力が実を結んだ結果である。したがって、これらを「YCYの指導のみによる実績」として過大に主張する意図はない。

別紙|A2 ゴールドモデル SR-1本命・SR-2からSP-1滑り止め合格

P.34

残念ながら名門目指した結果、下位滑り止め合格になるのは、基本発見した時期ですでに挽回不可能なケースが多い。なぜなら、研究計画書と理論キャッチアップするに挟まれるのはほぼ脱出不可能だから。一方、最初からsr-1本命ならば、熱情入学は危ないから、何とか最低限対策してほしい。

項目	内容	コメント
Aさん：志望校選定の妙と熱意による合格（SR-1目標から本命合格）	経緯：本人の基礎能力を鑑み、当初はSR-1（標準的研究科）を目指していた。しかし、入試直前期になっても、専門知識および日本語能力の双方が合格圏には届かない極めて厳しい状況にあった。 戦略と結果：学生確保に積極的な地方公立大学をターゲットに変更し、まずは研究生として入学することも視野に活動を展開した。特筆すべきは、研究計画書の作成プロセスにおいて、過去の反省を活かし極めて真摯な態度で取り組んだ点である。最終的に合格を勝ち取れたのは、日本語能力の課題を補って余りある、研究に対する誠実な姿勢が評価された結果である。	熱意のみを武器にした「熱情入学」は、入試におけるリスクが高だけでなく、入学後の講義や研究においても多大な困難を伴う。<u>自身の首を絞める結果になりかねないため、実力を伴わない精神論のみでの志願は避けるべきである。</u>
Bさん：現実的判断による確実な合格（SR-3目標からの戦略的転換）	経緯：受講開始時点で既に独自の対策を行っていたが、精査したところ、目標とするSR-3（難関研究科）に到達しうる能力基盤が著しく欠如していた。年齢や家庭の事情から浪人が許されない状況であったため、目標校を現実的なレベルへ引き下げ、理論学習は重要論点のピックアップに絞り、研究計画書は全面的な書き直しを断行した。 決断のポイント：指導の過程で、再度目標校のレベルを戻すべきか検討したが、その場合は計画書の再修正と学習範囲の再拡大が必要となり、全体のバランスが崩壊して共倒れになるリスクがあった。そのため、当初の「確実に合格を掴む」という戦略を維持し、無事に滑り止め校への合格を果たした。	

留意事項

事実の保証：本資料に記載された事例は、すべて実在する受講生に基づく真実であることを固く保証する。

事例の選出：提示した事例は全合格者の記録ではなく、学習モデルや戦略の有効性を説明するために、適切に抽出したものである。

合格の帰属と因果関係：試験合格の成否は、受講生本人のたゆまぬ努力が大部分を占めるものである。YCYが提供するサービスと合格の直接的な因果関係を客観的に立証することは困難であり、これらはあくまで個人の努力が実を結んだ結果である。したがって、これらを「YCYの指導のみによる実績」として過大に主張する意図はない。

別紙|A2 ゴールドモデル SR-1本命・SR-2からSP-1滑り止め合格

P.35

前スライド紹介したよう、逆転合格は一例もない。最初本命で、長い時間でちゃんと専門知識と研究計画書を練って、コツコツ努力した上で合格するのは基本である。

項目	内容	コメント
Aさん：潜在能力の開花と方針転換（専門職志望からSR-3合格）	経緯：当初は専門職大学院を希望していたが、ヒアリングの結果、計算は簿記2級を習得済み、理論も基礎知識を有していた。さらに英語専攻であり語学力に支障がなく、時間的余裕と将来計画を鑑みれば、専門職の最上位校よりも研究科（SR-3）を目指すべきであると判断し、方針転換を提案した。 戦略と結果：本人が8か月間、極めて献身的に学習に専念した結果、滑り止めとしていた1校を除き、志望した上位校すべてに合格した。当初の懸念を払拭したことで、非常に質の高い学習を継続できたことが勝因である。 懸念事項の解消：学部が英語専攻である点：学部の専攻と会計学の研究能力に直接的な相関はなく、むしろ英語力は研究科において強力な武器となる。税理士の科目免除希望：研究者としての質の高い論文を執筆すれば、当然ながら免除審査の対象としても通用する。 総括：前の指導には、受講生の適性を無視して専門職大学院へ誘導する傾向が見受けられるが、適切な進路選択がいかに重要であることを証明した事例である。	事例のBさんは、国内の日本語専攻出身ではなく、大学卒業後の職務経験も会計とは無縁であった。本人は日本語の練習機会が少ないことを懸念し、言語学習アプリなどを活用して補っていた。 個人の見解として、「日本国内に身を置けば日本語能力が向上する」というのは典型的な妄想に過ぎない。日本語学校での学習も、本質的な日本語能力向上には寄与しない場合が多い。
Bさん：理想的な学習プロセスによる完勝（国内対策から上位校一発合格）	経緯：当初から高い学力を有しており、計画策定の段階からYCYが関与した。約1年間にわたり日本国内で対策を進め、受験時には短期滞在ビザで来日し、試験に臨んだ。 結果：1年間の伴走期間中、特筆すべきトラブルも停滞もなく、文字通り「順風満帆」に最上位校への一発合格を果たした。 総括：エピソードとしては波乱に欠けるが、これこそが全受講生が目指すべき理想の形である。「正しく準備し、計画通りに収穫する」という、実力至上主義の入試における王道を体現したケースと言える。	

留意事項

事実の保証：本資料に記載された事例は、すべて実在する受講生に基づく真実であることを固く保証する。

事例の選出：提示した事例は全合格者の記録ではなく、学習モデルや戦略の有効性を説明するために、適切に抽出したものである。

合格の帰属と因果関係：試験合格の成否は、受講生本人のたゆまぬ努力が大部分を占めるものである。YCYが提供するサービスと合格の直接的な因果関係を客観的に立証することは困難であり、これらはあくまで個人の努力が実を結んだ結果である。したがって、これらを「YCYの指導のみによる実績」として過大に主張する意図はない。

別紙|A3 履歴等

P.36

身の上の経歴等

年度	概要
2016年10月	来日、日本語学校
2018年4月	首都圏国立大学経営学部入学
2019年5月	公認会計士 短答式試験合格
2020年11月	公認会計士 論文式試験全科目合格 Big 4 金融事業部学生非常勤入社
2022年4月	公認会計士予備校チューター 大学卒業 同監査法人常勤転換 予備校チューター退職
2023年12月	公認会計士 修了考査合格
2024年8月	公認会計士登録 社内異動よりFASへ転職

資格指導に関する経歴

年度	概要
2020年1月	短答合格後、会計研究者に関する入学対策と論文アドバイス
2020年11月	① 予備校内、チューターとして公認会計士受験生指導
2022年4月	② 中国籍会計専門職・研究者に関する入試指導等

身の上の経歴に関する補足

- 大学1年生の5月および11月にそれぞれ簿記2級と1級に合格しているが、自身の経歴に記載する他の資格水準を鑑み、表内に記載するレベルではないと判断し省略している。
- CFA（米国証券アナリスト）については、2023年にLevel 1、2024年にLevel 2に合格済みである。簿記よりも母集団が大きく難易度も高いが、Level 3の受験予定が未定であり、チャーターホルダー（正会員）ではないため、現時点では表内への記載を控えている。

資格指導に関する経歴の補足

- 日本の大手予備校におけるチューター職は、大学3年次での会計士試験合格者を対象としたものである。これは、YCYが公認会計士試験全般を独断で指導できることを意味するものではない。また、公認会計士及び税理士を目指す者は、いかなる場合であっても中国人による指導を受けるべきではないと強く提唱している。
 - ここまで日本語で読んできた読者ならば、言うまでもないものと思うが、指導を受けるものか、**中国人で、公認会計士と税理士の指導を提供しているものは、必ず詐欺である。**その理由の詳細については：**小红书 日本会计学最全攻4 公认会计师和税理士**を参照されたい。
- 研究者の指導は専門職の指導より先に開始したのは、20年1月短答合格・論文第二回試験待ち状態で、指導に多く時間投下できないため、主として当時在籍した大学の院生の入試対策と論文アドバイスを主要業務とし、その後会計士試験合格後は前述したチューター職に時間投下し、正式的に中国籍会計専門職・研究者に関する入試指導は、大学卒業及びチューター期間終了した2022年4月となっている。